

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局

今回は、カトリック宮古教会の10回目を迎えたわかちあいイベントの様子をご紹介します。久しぶりに岩手県にある4つのカリタスペースもイベントに参加しました。

また、亘理町で継続的に活動している八木山教会「八木山オリーブの会」の活動についてもご紹介いたします。

第10回 わかちあいイベント

カトリック宮古教会 斉藤 絹子

11月18日、秋晴れのもと、宮古教会では第10回目の「わかちあいイベント」が開かれました。今までは、物資配布が中心でしたが、今回は「おふるまい（炊き出し）」と「音楽ライブ」で楽しい時間を過ごしてもらおう！というものです。

朝7時半からおにぎり作り、隣接する幼稚園園庭では、テント張りが始まりました。遠くは、千葉県茂原教会、盛岡地区の教会、大船渡、釜石、大槌、そして地元宮古ベースのボランティアが総勢60名ほど集まってくださいました。

イベント前にミサにあずかった後、11時半からのオープンに向け、ジンギスカン、長崎皿うどん、たこ焼き、フランクフルトの準備が始まりました。



大槌ベース「長崎皿うどん」



大船渡ベース「たこ焼き」



カリタス釜石「フランクフルト」

ライブは、11時に地元で人気の民謡歌手小田代直子さん、12時半には山口太鼓の演奏を行いました。この日はあちこちでイベントがあり、来場者の数が気になるころでしたが、カリタス札幌の仮設住宅での呼びかけと送迎もあり、20名以上の方々が早々と来てくださいました。最初はまばらだった客席も、小田代直子さんの力強い歌声と温かいおしゃべりに人々が集まってきました。歌を聴いて涙ぐむ人、花束持参で来てくださった人、私たちボランティアも感動させてもらいました。また、子どもから大人まで総勢30名近い奏者の熱気あふれる山口太鼓の演奏は、震災で体験したしんどさを吹き飛ばし、新しいエネルギーが吹き込まれたような演奏でした。ライブが終わる頃には、来場者が170名ほどになりました。

印象的だったのは、震災前は同じ地区だった人たちが、別々の仮設住宅になり、この日4年ぶりに再会し、肩を抱き合って喜び合う姿でした。その方は送迎の車の中で「家にいてもひとりだしね、楽しみにしていたよ。」と話されていた方でしたが、思いもよらないところで懐かしい人と再会できたことは、大きな喜びだったようです。



地元の民謡歌手のライブと山口太鼓の演奏が、イベントを盛り上げてくれました。

また、今回も少量でしたが布団や毛布の支援物資があり、帰り間際に見ていただきましたが、ほとんどの物がきれいになりました。震災直後に配布された毛布等は、もうくたびれてきた頃なのだろうと思われました。

復興住宅の建築はどんどん進み、市内の中心部にいくつも完成してきています。しかし、仮設住宅の方々が皆すぐに移ることができるという状況でもなく、まだまだ見通しのつかない方々がいるという事実もあります。私たちのできることは何だろうと思いをめぐらせますが、はっきりとした答えは見出せません。しかし、ひとりでも喜んでくださる方がいることを忘れずに、支援してくださる皆さんの思いやつながりを大切に、この「支援の糸」を切らないように細々とでも活動していければと思っています。



仮設でお茶のお稽古&折り紙で作ったコマ回し大会

八木山オリーブの会 野田 和雄

八木山オリーブの会では、継続的に訪問している亘理町旧館集会場で、8月12日にお茶のお稽古、9月16日にコマ回し大会を行いました。男女合わせて20人以上が集まり、そのほとんどが、仮設住宅から出た人々です。新たに住むことになった地域に町内会が出来ていないことや、新しい土地に馴染めないお年寄りが多いことから、楽しみに集会場へと集まってきます。

8月のお茶のお稽古は、「普段、お抹茶をもらっているけれど、お点前をやってみたい」という地元の方の希望から実現しました。指導は、オリーブの会のK先生。この日は着物姿で登場です。いつもは「おはよう」と挨拶を交わす地元の人も、この日の先生には「良くいらっしやいました。」と挨拶します。やはり着物の魔法でしょうか？

男性参加者も将棋を切り上げて、一緒にお稽古に参加します。日頃はお茶を飲むだけで、誰かが入れてくれるものと思っている人たちはです。そのような方にもお茶の基本を解りやすく、実際にやって見せて説明します。棗(なつめ)・茶杓・茶筌・茶碗・懐紙・菓子など…。



お茶のいただき方や点て方を、実際に体験していただきました。

まずはお茶を美味しくいただき、その後は、見よう見まねでやってみます。最初は少し緊張ぎみでしたが、お点前とお客が入れ替わる頃になると面白くなってきます。茶筌を回して泡立たせると、お客が覗き込んでいます。茶碗の中の泡立ち具合を隣と比べて「もう少し」。手つきも軽やかに慣れてくると楽しそうです。普段より少しすまして「どうぞ」。笑顔で「いただきます。」そんな声が、部屋のあちこちから聞こえます。心配顔だったお客役も笑顔になって「美味しくいただきました。」と作法通りに応えます。

私たちも被災者の方が点てたお茶をいただくのは初めてです。「頂戴いたします。」と心を込めて感謝しながら美味しくいただきました。背筋が伸びてカッコイイ人が意外に多く、お茶の心得がある人も多いようです。赤い毛氈の上からお茶の緑が美しく映えています。楽しく美味しい時間の中に笑顔が広がりました。

9月のコマ回し大会は、当初、「仮設からの参加者が、ほとんど誰も居ないのに集会場だけ使えるの？」という心配もあり、お別れ会の予定でした。しかし、亘理町の方針で、集会場が引き続き使えることになったため、お別れ会からコマ回し大会に変更して企画を予定通りに行いました。

3枚の折り紙を組み合わせるコマは、色選びから始まります。色の組み合わせによって、回った時の色のイメージが変わります。楽しく色比べをした後は、折り紙の始まりです。

「作り方が分からない」「ついてゆけない」「どうしたらいいの？」そんな声に応じて各テーブルを回るのはO先生。サンプルを手に、分かりやすく丁寧に説明します。「ホセ神父様は器用で早いけど、TさんKさんは大丈夫？」完成品のサンプルを見ながら、皆さん真剣な表情になり、ボランティアも被災者もなく、同じ生徒になっています。



好きな色の折り紙で、思い思いのコマを作られていました。完成後は、賞品のかかったコマ回し大会です！

早くできた人がコマを回し始めてニッコリ。それを見て出遅れた人が「ここどうやるの？」「出来た！」。テーブルのあちらこちらからコマが回り始めます。たくさんの色のコマが回ると、色が混じり競い合って咲く花のようです。

今回は、誰の作ったコマが一番長く回るか競争し、勝った人から順に好きな賞品をもらえるようにしました。「試合開始！」の声と共にコマが回り始め「ヤッター」と歓声が上がります。

意外にも、「ワシャ折り紙は苦手だ！」と好きな将棋を禁止され、戸惑っていた男性たちの作ったコマが、折り目が強いせいか良く回ります。勝った人から好きな賞品を手にニッコリ。次の人も張り切って挑戦し、「○位だったけどこれ取った。」と笑顔でポーズ。

お茶のお稽古やコマ回し大会の後は、昼食の時間です。みんなで一緒にお弁当を食べながら、その日行った企画について会話が弾みます。お茶のお稽古の時には、「あんたにお茶を点ててもらうとは思わなかった」「普段からお上品なら良いのに」という冗談を言いながら、皆さん楽しんでいました。

昼食後は、Sさんのギターで歌を歌ったり、ホセ神父様のメキシカンメロディで楽しい時間を過ごしました。名残惜しい気持ちの中で、「また来てね。」「また来ます。」の声を交わし、次回の約束をしてお別れです。

八木山オリーブの会は、2016年3月まで亘理町旧館集会場を訪問する目途がついています。



昼食後は、みんなで音楽を楽しんでいます♪